

令和2年8月31日

小金井市長 西岡 真一郎 様

小金井市子ども・子育て会議
会長 倉持 清美

「のびゆくこどもプラン 小金井（第2期小金井市子ども・子育て支援事業計画）」事業進捗状況に対する令和2年度評価について（報告）

本会議は、「のびゆくこどもプラン 小金井」（第2期小金井市子ども・子育て支援事業計画）の推進にあたり、事業の進捗状況等について鋭意審議を重ねてまいりました結果、別添のとおりまとめましたので、ここに報告いたします。

1 事業の進捗状況等

「のびゆくこどもプラン 小金井」(第2期小金井市子ども・子育て支援事業計画)の事業の進捗状況等については別紙のとおりである。

2 特記事項

計画の推進に当たり、以下の意見を特記する。

(1) 子どもの居場所づくりの推進

子どもの居場所については、対象者に関して、低学年児童のみならず、乳幼児、高学年児童、中高生世代に加え、特別な配慮が必要な子ども、不登校児といった多様な子どもがいることに留意する必要がある。また、居場所に対するニーズについても、遊び、習い事、学習(自習含む)、食事、交流、養育支援のほか、何もしなくてよい、ただ静かに過ごせる居場所が欲しいなど、多様なニーズがあることを踏まえる必要がある。その他、居場所の担い手、ハードのあり方など多くの検討事項がある。さらに、子どもの居場所のあり方を考える際には、昨今のコロナ禍による社会情勢変化にも留意する必要がある。

今後、子どもの居場所部会において、子どもの居場所のあり方について審議を行うが、その審議結果を尊重し、子どもや保護者が気軽に立ち寄れる地域の居場所づくりを推進していただきたい。

(2) 子どもオンブズパーソンの設置

子どもオンブズパーソンについては、子どもが相談しやすい仕組みづくり、実効性を持たせるための条例化等、さまざまな検討課題がある。

現在、子どもの権利部会においてこのような検討事項の審議が始まったところであるが、その審議結果を尊重し、子どもオンブズパーソンが、子どもの声を聞き「子どもにとっていちばんいいこと」を一緒になって考える場所となるようにしていただきたい。

(3) 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策として、市独自のものも含め、緊急で子ども・子育て関連の予算を措置し、事業実施したことは一定評価できる。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の収束はいまだ見えないことから、今後も引き続き、コロナ禍によって生じる緊急性の高いニーズに対する施策や事業については、計画外のものであっても積極的に推進していただきたい。

(4) その他

コロナ禍のような不測の事態において顕著になったこととして、縦割行政の課題がある。平時から学校等との連携を含め、横のつながりを重視し、情報共有のうえ対応するようさらに務めていただきたい。